

中国海軍核潜水艦の動向

漢和防務評論 20140124（抄訳）

阿部信行

（訳者コメント）

最近中国政府が海軍の核潜水艦部隊の訓練状況を宣伝公表しました。しかし実態はどうか？漢和防務評論の記事を紹介します。

記事によると、中国メディアは、インドメディアの報道記事を、言わば伝聞情報を引用し、読者に中国海軍のインド洋における活動に関する同記事を報道しました。

この方式は内容に責任を取らず宣伝効果だけを狙った記事ですが、中国メディアは多用します。捏造記事でも宣伝効果はあると。

最近、防空識別圏に関する中国報道にもありました。事実無根の内容でも状況に合致していれば捏造記事でも報道してしまう。

日本のメディアも読者を信じ込ませるために”俺は事実をよく知らないが、彼がこう言っている”と伝聞に近い内容を利用して世論工作することがあります。

最近では、輸送艦”おおすみ”の海難事故、都知事選など数限りなし。

KDR 香港特電：

2013 年 10 月、中国政府は、中国核潜水艦の訓練状況を誇大に宣伝し潜航深度の世界記録を保持している等々高言した。

しかし実際の状況は次の通りである。2013 年 1 月 26 日の衛星写真によると、青島の第 1 核潜水艦支隊の埠頭に 1 艘の 091 型核動力攻撃型潜水艦（SSN）が修理中であった。2011 年からこの 2 年間、この埠頭には常時 091 型が修理のため停泊していた。2012 年の衛星写真を見ると、また 1 艘の 091 型が解体された状況で置かれていた。このことから、この 091 は退役した可能性がある。又せいぜい 1 乃至 2 艘の 091 は改修された可能性がある。

2012 年に葫蘆島に出現した 1 艘の新たな SSN は、新型の 095 型か 093 型の継続生産型かは現在判断できない。中国海軍はすでに 2 艘の 093 型を配備しており、海南島には常に 1 艘の 093 型が停泊している。現在インドのメディアは、中国核潜水艦がインド洋に入ったと報道している。中国メディアは、ヒンダスタン・タイムス 6 月の報道を引用し「インド国防部の機密文書によると、中国の攻撃型潜水艦が 2012 年にインド洋に進入した回数は少なくとも 22 回である」と報道した。（KDR はインドメディアの原文を確認していない）

衛星写真、及び地上観察を総合判断すると、インド洋に進入した中国潜水艦は、南海艦隊のディーゼル潜水艦が主であると KDR は見ている。南海艦隊には 4 乃至 5 艘の KILO-636 及び 2 艘以上の 039A/B 型が配備されている。毎日早朝 7 時に、少なくとも 1 艘の潜水艦が出港している。

しかし亜龍湾に配備された 093 型を観察すると、不思議なことに多数が長期間港に停泊したままである。以下は、衛星写真を解析した亜龍湾の第 2 核潜水艦基地の状況である。

2006 年：ここには未だ核潜水艦が配備されていなかった。

2008 年 9 月：少なくとも 1 艘の 091 型及び 1 艘の 093 型が配備された。

2010 年 6 月 23 日：1 艘の 093 型が在港した。

2011 年 2 月：1 艘の 093 型が在港した。

2012 年 6 月 6 日：2 艘の 093 型が在港した。

2013 年 3 月 6 日：1 艘の 093 型が在港した。

この動きから判断すると、5 回の衛星撮影時期に、毎回少なくとも 1 艘の 093 型が在港している。093 型の活動頻度は高くない。

したがって KDR は、インド洋に進入した潜水艦は大多数がディーゼル動力の通常型潜水艦であると判断している。

ついでに南海艦隊第 2 核潜水艦支隊に配備された 1 艘の 094 型戦略核ミサイル潜水艦 (SSBN) の活動状況を見る。

2012 年 6 月 26 日：1 艘の 094 型及び 2 艘の 093 型が在港した。

2013 年 3 月 6 日：1 艘の 094 型及び 1 艘の 093 型が在港した。

KDR の推測は次の通りである：093 型の通常戦術は、潜航深度が深いこと及び潜航時間が長いという利点を利用している。したがって 094 型が出航している間は、093 型が戦術掩護を行っているのではないかと。

再び通常型潜水艦の活動状況を見ると、この型の潜水艦が利用する基地は主として南海艦隊玉林基地である。主として KILO 型潜水艦の活動状況を見ると、

2013 年 12 月 8 日：4 艘の KILO 型が在港していた。在港していたディーゼル潜水艦の総数は 7 艘である。そのうち少なくとも 2 艘は、039B”元”型である。

2010 年 5 月 31 日：4 艘の KILO 型が在港した。在港していたディーゼル潜水艦の総数は 9 艘である。

2002 年 12 月：在港していたディーゼル潜水艦の総数は 12 艘であり、すべて 035 及び 033 型旧式潜水艦であった。

この状況から南海艦隊第 32 潜水艦支隊は通常型潜水艦部隊として重点的に強化されていることが判明した。

作戦運用について述べる。中国海軍は、すでに第 14 回目のインド洋での船団護衛任務を行った。正式発表による参加艦艇は、すべて水上艦であり潜水艦は含まれていないが、作戦演習を行うのであれば、遠洋における水上艦と潜水艦の協同作戦を行うはずである。したがって中国海軍は船団護衛を行うと同時に潜水艦を出動させ協同作戦演習を行っている可能性がある。

またある種の動向に注意すべきである。地上からの観察によると、時には 5 艘の **KILO** 型が玉林に停泊していた。これは東海艦隊から 1 艘の **KILO** 型が玉林に機動訓練したのだろうか？或いは第 32 潜水艦支隊に 1 艘の **KILO** 型が増加配備されたのか？注目する必要がある。

2 回の衛星撮影時刻にディーゼル潜水艦特に精鋭のロシア製 **KILO-636** 型が在港していたのはなぜか？地上観察によると、中国海軍潜水艦の訓練は、實際上遠洋での長期訓練の回数は少なく、大部分の訓練は短期訓練のようだ。通常は、早朝に出港し帰港時間は午後 5 時前後になる。すなわちせいぜい 1 日或いは数日間の短期訓練が行われているようだ。このことが核潜水艦であろうとディーゼル潜水艦であろうと長い時間滞港している主な理由であり、この間衛星によって撮影された可能性がある。言い換えれば、中国が引用したインドメディアの報道、すなわち 2012 年に中国潜水艦がインド洋に 22 回進入したとする報道に、**KDR** は疑いを持っている。もし報道が正しいとすると、中国潜水艦は毎月 2 回インド洋に進入しなければならないからだ。

以上